

浜松医科大学では、以前から図書館等において、インターネットを利用したオンライン授業のための設備など環境を整備していたことから、今年度の学事予定を遅らせることなくオンライン授業を実施することができています。さらに、医学部教育では必修の臨床実習や解剖学実習なども、徹底した新型コロナウイルス感染症の感染対策や関係教職員等の協力により、全国立大学の医学部を置く大学が臨床実習を中止する中でも本学は稀に継続実施しています。特に、コロナ禍における臨床実習は通常と異なり、細心の注意を払って感染予防に努めつつ、患者様を診察する教授等の様子を目の当たりにして行うことから、極めて貴重な学修機会となっています。

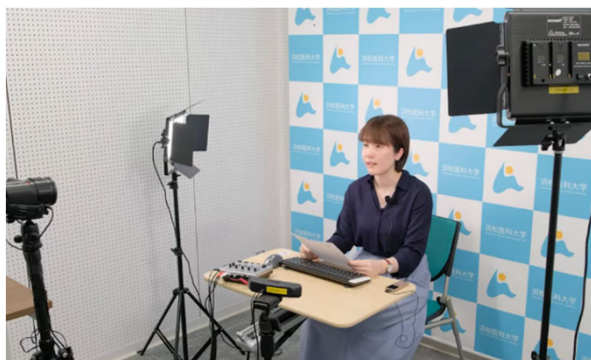
学生へ授業に対するアンケートを実施したところ、オンライン授業について、「学修効果が高まる」、「資料が事前送付されるため、予習するようになった」など評価する意見が多かったことから、後期では、実験・実習や対話を伴う授業は対面形式で実施し、座学については、オンライン授業で実施しています（割合：対面57%、オンライン43%）。また一部の授業では、1つの授業クラスを2教室に分割し、片方は対面で、他方はリアルタイムでのオンライン授業を行い、これを交互に入れ替えることでクラスの少人数化による感染対策と対面授業を両立しています。オンラインでの実施がかなり困難なスモールグループで行うPBLチュートリアル教育においては、チューター教員へのFDの開催やオンライン上のホワイトボードの活用により、スモールグループでのディスカッションを活性化して、対面での学修と同程度の学修効果が期待できるものとなりました。以前から実施している学生チューターによる屋根瓦方式でのPBLチュートリアル教育も継続しています。

今後は設置を予定している電子黒板を利用し、今までの経験を生かした新しいPBLチュートリアル教育やシミュレーターを使った臨床実習を取り入れるなど、オンライン授業の良い点を最大限に生かし、対面授業とのハイブリッド教育を実施してニューノーマル時代における医学部教育を実践していきます。

## 臨床実習を例年通り実施



## 授業や試験を学事予定通り実施



オンライン授業の配信設備



PBLチュートリアルのオンライン実施



クラスを少数化した対面授業

## オンラインと対面を合わせたハイブリッド授業

